

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：中小企業の業況（8月調査）

発表日：8月31日(水)

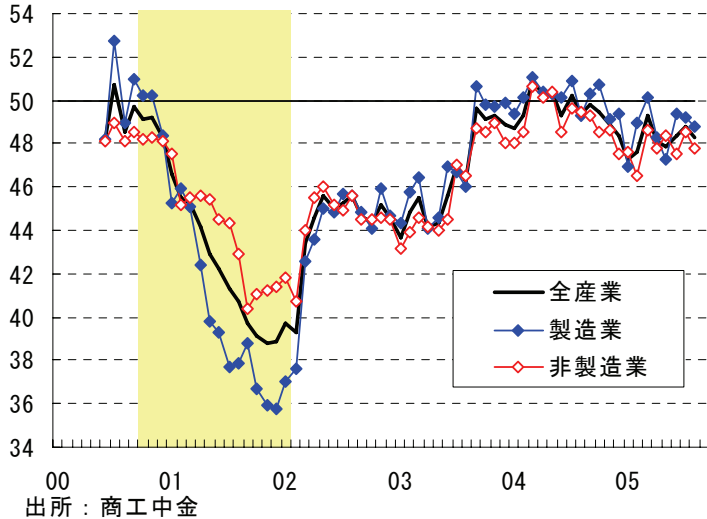
～ 足元は一進一退。先行きは改善の兆しも？ ～

(No. J - 102)

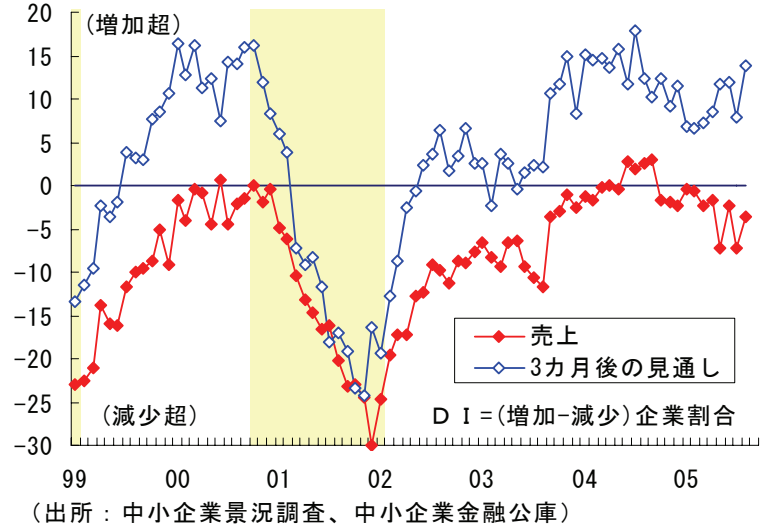
第一生命経済研究所 経済調査部

担当 新家 義貴(03-5221-4528)

景況判断指数（中小企業月次景況観測）



中小企業 売上D I (季調値)



○ 足元は一進一退。先行きは改善の兆しも？

8月30日に商工中金から「中小企業月次景況観測」が、8月31日に中小企業金融公庫から「中小企業景況調査」がそれぞれ公表された。これらは、日頃見落とされがちな中小企業の業況を月次で調査する統計である。中小企業月次景況観測の8月の景況判断指数(1000社調査)は48.3(7月48.8)と前月から▲0.5ポイントの小幅悪化となった。内訳では、製造業が前月差▲0.4ポイントの悪化、非製造業が同▲0.7ポイントの悪化となっている。一方、中小企業景況調査の8月の売上D Iは▲3.6(7月▲7.2)と前月から+3.6ポイントの改善となった。

このように、調査によって単月の動きはまちまちだ。もっとも基調としてみれば、①昨年末までは落ち込んでいたが年明け以降は下げ止まっていること、②改善トレンドに入ったとまではいえないこと、の二点については共通している。足元では一進一退の推移を続けているとあってよいだろう。

先日公表されたロイター短観（旧テレート短観）でも、製造業の業況判断が6、7月に2ヶ月連続で悪化した後、8月も横ばいにとどまるなど芳しくない結果となっている。これらをあわせて考えれば、企業の業況感はまだ改善基調に入っていないと判断できる。

もっとも、ロイター短観では先行き判断は大幅に改善している。また、中小企業景況調査の「今後3ヵ月間の売上見通し」が持ち直していることは注目される。単なる期待に終わる可能性ももちろんあるが、本日公表された鉱工業生産では①IT部門の在庫調整進捗が確認されたこと、②8、9月の予測指数はかなり強いこと、などからすると、ある程度の裏付けはあると考えられる。確かに足元の売り上げ等はまだ改善してはいないが、先行きに関しては、改善の兆しを企業は徐々に感じ始めている可能性があるといえるのではないだろうか。